

永井 眞由美

日本赤十字広島看護大学 准教授

認知症介護を担う男性介護者の

サクセスフル・エイジングをめざす準備教育プログラムの開発

本研究は、在宅で認知症高齢者の介護を担う男性介護者のサクセスフル・エイジングをめざす準備教育プログラムを開発することを目的とした。

調査Ⅰでは、「認知症高齢者を介護する男性介護者のよりよく生きる力とその要因」をテーマとして男性介護者 12 名を対象に半構成的面接調査を行った。質的分析の結果、よりよく生きる力として“主体者になる力”、“バランスをとる力”、“学習・自己成長する力”のカテゴリーが見出された。生きる力を育む要因として、内的要因である、愛情、責任感、環境的要因である精神的支援、実質的支援、社会への近接性、出会いとつながり、経済的な基盤が見出された。

調査Ⅱでは、「認知症高齢者を介護する男性介護者が求める学習支援と準備教育」をテーマとして介護者 118 名を対象に自記式質問紙調査を実施した。分析の結果、男性介護者が求める学習支援は「認知症の理解・対処」58%が最も多く、「家事」は男性が有意に多かった。準備教育として必要とする内容は「生活援助」66%が最も多く、男性が有意に多かった。適切と思う準備教育の開始時期は、小・中学校、高等学校が 7 割であった。男性介護者のサクセスフル・エイジングには、認知症の知識とともに基本的な生活技術の学習が重要であり、学校教育と地域活動が連動した教育プログラムを展開する必要性が示唆された。